

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：23401

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K12337

研究課題名(和文) アメリカ児童・思春期文学における強制収容表象の変容に関する系譜的研究

研究課題名(英文) Representations of Japanese American Internment Experiences in Children's Literature

研究代表者

小松 恭代 (Komatsu, Yasuyo)

福井県立大学・学術教養センター・教授

研究者番号：70710812

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：1940年代から2010年代までの日系人の強制収容をめぐる米国児童・思春期文学作品を、スチュアート・チンの多文化主義児童文学のオーセンティシティの基準を援用して分析した。様々な人種/民族的背景を持つ作家によって収容物語は書かれてきており、強制収容をもたらした米国社会の人種的ヒエラルキーへの批判の有無は作家による。

収容物語の出版には米国の社会状況が関連している。日系作家の体験にもとづく収容物語の出版は強制収容へのリドレス運動開始後であり、近年ではヘイトクライムの増加や不法移民政策等により収容物語の出版が増えている。日系人の強制収容を他のマイノリティの抑圧の歴史や体験と重ねて描く傾向にある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、児童・思春期文学における強制収容物語の出版は民族/人種的マイノリティをめぐるアメリカの社会的状況と関連していることが明らかになった。第二次世界大戦から80年が過ぎた現在でも収容物語の出版が続いている。コロナ禍でのアジア系の人々へのヘイトクライムやBlack Lives Matterの運動、トランプ政権下でのイスラム教徒やメキシコからの移民の排除が表しているように、アメリカ社会には人種的ヒエラルキーが存在しマイノリティの人々への差別がなくなっていない。日系人の強制収容はアメリカ建国の理念と現実社会の矛盾を象徴する出来事であり、今後も様々な表現様式で描かれ続けることが推測される。

研究成果の概要(英文)：I read and analyzed children's fictional books about Japanese American internment during World War II published from the 1940s to 2010s, by using Stuart Ching's theory of authenticity in multicultural children's literature. He insists that books questioning power relations in society be approved as authentic multicultural literature. Whether or not the injustice done by the government and racial hierarchy in society are strongly criticized in a story depends on a writer.

The publication of internment stories has been closely related with the social environment of its time. Yoshiko Uchida's book based on her own experience came out in the 70s, when the Redress Movement began to draw public attention. In the post-9/11 period, reflecting the increase of hate crimes against Muslim Americans and the government policy on immigration, the publication of internment stories has been rising. Some of them are written in relation to oppressive experiences of other racial/ethnic minorities.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：日系アメリカ人 強制収容 多文化主義児童文学

1. 研究開始当初の背景

日系アメリカ人の強制収容を描いた文学作品の出版数は2000年代以降、児童・思春期文学の分野で増加している。特に、日系以外の作家による作品が増えており、日系社会の歴史や体験、集合的アイデンティティにかかわる強制収容を日系社会に属さない作家が描くようになっていく。この点は多文化主義児童文学のオーセンティシティの問題と関わるかもしれない。作者が作品内で描かれるエスニック・グループの内部者であることを重視する意見があるからである。これに対し、Stuart H.D. Chingはオーセンティシティの基準¹を内部者や外部者ではなく、社会における権力構造/力関係に対する意識と関連づける。エスニック・グループ/人種的マイノリティと主流社会との間の力関係が作品内で問題化されている場合に、その作品は多文化主義児童文学であると見なされ得ると主張する。強制収容は日系という人種的マイノリティの人間性を否定した国家権力による暴力、不正行為であり、収容物語においては日系アメリカ人と主流社会の間の力関係を問題化する必要がある。

強制収容の一番の問題点は、日系アメリカ人が国家によって市民権を剥奪され、強制的に収容所に収監されたことである。この問題点について大人向けの作品では、作家が様々な手法で描いてきていることをこれまでに分析してきた。児童・思春期文学においては市民権剥奪への批判は分野の特性上曖昧のように見える。最初の強制収容物語は白人女性 Florence Crannell Meansの*The Moved-Outers*(1945)である。主流社会の視点から描かれたこの作品はニューベリー賞を受賞した。子供向けの強制収容物語の出版やその表象は、どの程度政治的テーマを受け入れる土壌が社会にあるかという社会的状況と関連する。児童・思春期文学の強制収容表象は米国社会の人種問題を映す鏡となり得る。国家にとっては負の歴史であり、日系アメリカ人にとっては集団的トラウマ記憶である強制収容の記憶を、次世代の子供たちに米国社会は文学を通じてどのように引き継ごうとしてきたのかの検証はまだ行われていない。

注1 Ching, Stuart H.D. "Multicultural Children's Literature as an Instrument of Power." *Language Arts* 83.2 (2005):128-136.

2. 研究の目的

研究目的は下記の3点である。

- (1) 日系作家 Yoshiko Uchida の *Journey to Topaz*(1971) とその続編 *Journey Home*(1978) は、現在でも強制収容物語の代表作として読まれている。しかし、Stuart H.D. Ching の多文化主義児童文学のオーセンティシティの基準に従うと、日系アメリカ人に厚情を示した白人に感謝を表す表現が多く、アメリカ社会の人種差別への非難は非常に弱いと分析できる。大人向けの自叙伝(1984)では、Uchida は強制収容を国家による不正として強く非難しており、これらの作品との政治的意識の差は大きい。子供向けの収容物語の出版において、Uchida は出版社からどのような制約を受けていたのかを、彼女が出版社と交わした手紙や当時の新聞の書評などの資料から検証する。
- (2) 上記の調査によって得られた1970年代の強制収容物語に対する主流社会の反応とUchida の表象を基点とし、その前後の強制収容の児童・思春期文学作品について、市民権や人種差別の問題の扱われ方に関して作家の背景や社会的要因をもとに検証・考察する。
- (3) 児童・思春期文学の強制収容表象を米国の社会的枠組の変容において総括的に考察する。

3. 研究の方法

本研究の重要な点は、人種間の友情や調和ではなく、人種間のヒエラルキーに対する問題意識の有無という子供向けの作品とは相容れないような基準によって児童文学作品を分析することにある。1965年に教育者の Nancy Larrick は児童文学が白人の世界であることを指摘したが、50年後の現在は出版された児童文学作品の約20%が多様なエスニシティを持つ人々の物語となっている。問題にしたいのは、それらの作品が米国社会の人種的ヒエラルキーや人種差別を問題にしているかどうかである。この点について、Stuart H.D. Ching のオーセンティシティの基準を援用しながら、初期の収容物語である Florence Crannell Means や Yoshiko Uchida の作品から今日までの強制収容の児童・思春期物語、約30点の作品において、それぞれの時代背景を視野に入れて分析・検証を行った。

- (1) オレゴン大学のナイト図書館や UC バークレーのバンククロフト図書館が所蔵する *Yoshiko Uchida Papers* から、下記に関する資料を収集し、検証・考察した。
 - ・ Uchida の収容物語出版への経緯、出版社から受けていた制約や助言に関する資料
 - ・ *Journey to Topaz*(1971) と *Journey Home*(1978) の書評
 - ・ アメリカ社会および日系社会での受容
 - ・ Uchida の収容物語のドラマ化の原稿
 - ・ 未発表作品の原稿

- (2) Uchida の作品以外で収容物語のジャンルに入ると思われる児童・思春期文学作品を下記の時代区分において、社会的背景を視野にいれて検証・考察した。
- ・1945 年～60 年代（日系人の再定住期）
The Moved-Outers (1945), Florence Crannell Means. *Tradition* (1945), Anne Emery. *Nisei Daughter* (1953), Monica Sone.
 - ・1970 年～80 年代（リドレス運動の時代）
Journey to Topaz (1971), Yoshiko Uchida. *Journey Home* (1978), Yoshiko Uchida. *Farewell Manzanar* (1973), Jeanne Wakatsuki Houston.
 - ・1990 年代（多文化主義浸透の時代）
The Bracelet (1993), Yoshiko Uchida. *The Moon bridge* (1995), Marcia Savin. *So Far From the Sea* (1998), Eve Bunting. *Baseball Saved Us* (1993), Ken Mochizuki.
 - ・2000 年代（同時多発テロ事件後の時代）
When the Emperor Was Divine (2002), Julie Otsuka. *Thin Woodwalls* (2004), David Patneade. *Weedflower* (2006), Cynthia Kadohata. *A Place Where Sunflowers Grow* (2006), Amy Lee-Tai. *Kiyo's Story* (2007), Kiyo Sato. *The Hotel on the Corner of Bitter and Sweet* (2009), Jamie Ford.
 - ・2010 年代前半（ポスト・レイシャルと呼ばれた時代）
The Fence Between Us (2010), Kirby Larson. *Sylvia and Aki* (2011), Winifred Conkling. *The Red Kimono* (2013), Winifred Conkling. *Silver Like Dust* (2013), Kimi Cunningham Grant. *Red Berries, White Clouds, Blue Sky* (2014), Sandra Dallas.
 - ・2010 年代後半（トランプ大統領、保守的な移民政策）
Gaijin (2014), Matt Faulkner. *Dash* (2016), Kirby Larson. *Paper Wishes* (2017), Lois Sepahban. *Write to me* (2019), Cynthia Grady. *Dust of Eden* (2018), Mariko Nagai. *They Called Us Enemy* (2019), George Takei. *Displacement* (2020), Kiku Hughes. *Internment* (2020), Samira Ahmed.

4. 研究成果

Yoshiko Uchida の *Journey to Topaz*(1971) と *Journey Home*(1978) は、Stuart H.D. Ching の多文化主義児童文学のオーセンティシティの基準に従うと、国家暴力や人種差別への非難は弱く、不正を許して前に進むことを主張する、主流社会への同化主義的な作品であると解釈できる。このような描き方はウチダの本意ではなく、児童向けの作品であり、主流社会の受容に配慮した出版社からの要望に答えた結果だろうと推測していたが、オレゴン大学のナイト図書館や UC バークレーのバンクcroft 図書館が所蔵する *Yoshiko Uchida Papers* の調査から、Uchida は強制収容への怒りや恨みではなく、むしろ国家の不正を許すことの重要性和困難を生き抜いた日系の人々の歴史を収容物語で描きたかったことが明らかになった。反対に出版社の方が、公民権運動や強制収容のリドレス運動との関連から人種差別を強く非難する作品を書いて欲しいと思っていたようである。

収容物語は Uchida や *Farewell to Manzanar*(1973) の Jeanne Wakatsuki Houston のように実際に収容を体験した作家だけではなく、いろいろな人種的、民族的背景を持つ作家によって書かれてきている。2000 年代からは収容体験のない日系作家による作品も増えている。また、描かれ方も様々であり、Uchida や Houston のように収容所での生活に焦点を当てた作品もあれば、収容所生活の詳細がほとんど描かれない作品もある。アメリカ社会の人種的ヒエラルキーを問題にしているかどうかに関しても作品によって異なる。例えば、最初の収容物語である Florence Crannell Means の *The Moved-Outers*(1945) は砂漠の収容所での困難な生活を描いてはいるものの、国家が強制収容に関して構築した「パイオニア」レトリックを枠組みとしており、主人公の日系少女は国家に貢献する「パイオニア」になろうと努力する。これは強制収容を強く非難した作品ではなく、主流社会への同化主義的な作品である。Marcia Savin の *The Moon Bridge*(1992) は日系少女と白人少女の友情物語であるが、白人少女の側から描かれ、日系少女の収容所生活は書かれていない。日系の子供たちへの暴力は多少描かれており、人種差別への批判はあるがアメリカ社会の人種的ヒエラルキーの問題にまでは踏み込んでいない。

2001 年の同時多発テロ事件以降の作品では、強制収容を他の人種 / 民族に対する差別問題と並行して描く傾向が見られる。このテロ事件が「第二のパールハーバー」として扱われ、アラブ系、イスラム系の人々への暴力行為がアメリカ社会で多発したことと関係がある。Cynthia Kadohata の *Weedflower*(2006) はアリゾナ州のポストン収容所での日系少女とインディアン少年の友情を描き、強制的に収容所に送られた日系人と居留地を追われたネイティブアメリカンを並置し、不正なマイノリティ支配の歴史として問題化している。また、Winifred Conkling の *Sylvia and Aki*(2011) は強制収容とメキシコ系に対する分離教育を並置し、国家による人種差別を批判している。

現在でも特定のエスニック・グループ / 人種的マイノリティに対する排除やヘイトクライムが続いている。トランプ政権時代には不法移民の親と子を別々の収容所に収監する政策が行われた。そうした社会状況を反映して、児童・思春期文学の分野で収容物語は出版され続けている。

たとえば、イスラム系の Samira Ahmed は *Internment*(2019)において、ごく近い未来にアメリカで起きた(起きる)イスラム教徒の強制収容を描き、イスラム教徒を「テロリスト」「国家安全への脅威」と見なす国家政策や人々の偏見を批判している。民主的国家建設の理念との矛盾がアメリカ社会に存在する限り、強制収容は児童・思春期文学のジャンルのテーマであり続けることが本研究によって明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 小松 恭代	4. 巻 50(2)
2. 論文標題 人種差別を象徴する空間：ジュリー・オーツカの『天皇が神だったころ』とシンシア・カドハタの『草花とよばれた少女』における砂漠	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 New perspective = 新英米文学研究	6. 最初と最後の頁 32-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小松 恭代	4. 巻 31
2. 論文標題 強制収容を生き抜いた一世を称える物語：ヨシコ・ウチダの『トパーズへの旅』と『故郷へ帰る』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Kanazawa English Studies	6. 最初と最後の頁 33-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松恭代	4. 巻 27
2. 論文標題 カービー・ラーソンの『ダッシュ』とロイス・セパバーンの『マンザナの風にのせて』を多文化主義児童文学のオーセンティシティの基準から読む	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 AALA Journal	6. 最初と最後の頁 61 - 70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小松恭代
2. 発表標題 ヨシコ・ウチダと強制収容
3. 学会等名 金沢大学英文学会総会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------